

「下関市立地適正化計画の一部見直し（案）」に対するパブリックコメント実施結果

1. 実施期間

令和7年1月14日(火曜日)から令和7年2月14日(金曜日)まで

2. 意見応募状況

意見応募者 2人

意見件数 2件

3. 意見の要旨と市の考え方等

【反映結果】

A：意見を踏まえて施策を補足修正、または追加した

B：軽微な文言修正を行った

C：施策の補足修正、追加を行わなかった

D：施策実施に当たって考慮すべき事柄として参考とした

E：パブリックコメントの対象外の意見として扱った

F：公表しない意見

番号	該当ページ/項目	意見の要旨	市の考え方又は対応	反映結果
1	全体	<p>現実にあわないところがあると考える。 「立地適正化」の観点を居住者の現実にあわせていくことが必要ではないか。 ・現状として、高齢者が都市部においても点在して、増えていく状況にある。この人たちを集約するのは困難である。 ・高齢者への目配り、気配りする者も増えていかない。 そのような現実をできるかぎり可視化し、社会全体のやり方をどのように変えていくかを話しあえるように材料・現状などを整理し、分かりやすく提示してほしい。</p>	<p>本市では、人口減少、少子高齢化が進展しても、一定エリアにおいて人口密度を維持することにより、日常生活サービスや地域コミュニティが持続的に確保されるよう、居住機能や都市機能の誘導に向けた考え方等を示すことを目的に立地適正化計画を策定しています。 公共交通の利便性が高いエリアで都市機能や日常生活サービスを維持し、市民誰もが享受できるような都市構造を目指すものであり、ただちに全ての居住を集約するというものではありません。 今後、公共交通施策、住宅施策、福祉施策等の多様な分野の計画と連携しながら、立地適正化計画に合致した施策、取組を検討してまいります。 なお、計画にあわせて概要版を公表いたします。</p>	D
2	50ページ	<p>この度の見直し案では、都市機能誘導区域を大幅に拡大する意図があるようだが、彦島地区のエリア設定が他地区と比較して小さいのではないか。 現在、下関北九州道路の計画が目に見えて進んでいるため、彦島支所周辺だけでなく、2箇所のインターチェンジ計画地を含んだ南風泊港線と本村西山線に囲まれたエリアを設定すべきではないか。 また、県道が交差する緑町交差点周辺や福浦交差点周辺もエリア設定すべきと考える。</p>	<p>下関北九州道路は、都市計画手続きを進めており、あわせて、インターチェンジで下関北九州道路と接続する予定の県道南風泊港線は、アクセス性の向上のため、一部区間を、現在の2車線から4車線に都市計画変更を行う予定です。 一方で、現時点で、事業化の時期は未定であり、これらの事業は、彦島地区全体の土地利用に大きな影響を与えるものであり、用途地域などの都市計画や立地適正化計画で定める都市機能誘導区域の見直しを検討する必要があります。 都市機能誘導区域等の見直しについて、下関北九州道路等の計画の進捗をふまえ、継続して検討を進めてまいります。</p>	D